

令和元年度

事業報告

平成31年4月 1日から
令和 2年3月31日まで

公益財団法人日本習字教育財団

目 次

(令和元年度事業報告)

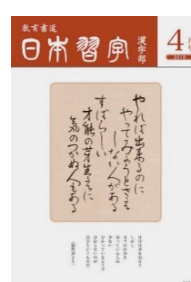
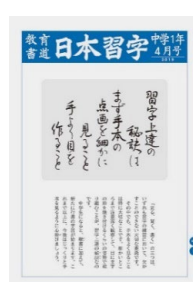
一. 書道の通信教育及び実習指導	1
1. 通信教育	1
2. 実習指導	3
3. 学習希望者並びに継続学習者の支援	4
4. 書道用具の頒布	5
5. 国際交流	5
6. ホームページの運用	6
7. 展覧会の後援および書道展の支援	6
二. 書道に関する展覧会の開催	6
1. 書道展の開催	6
2. 席書大会の開催	7
三. 書道に関する機関誌その他の出版物の発行	8
四. 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開	9
1. 書道文化に関する調査研究	9
2. 世界各国の文字資料その他文化資料の収集及びその展示公開	10
3. 教育・文化施設の運営	11
五. 書道に関する教育・研究機関への助成	12
六. その他本法人の目的を達成するために必要な事業	12
1. 「習字の日」事業の実施	12
2. 委託研究	13

一．書道の通信教育及び実習指導

1．通信教育

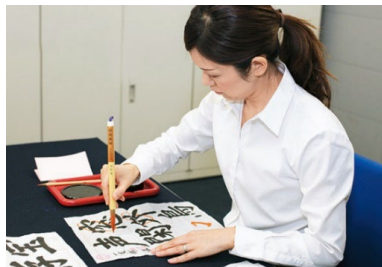
(1) 教材

各コースそれぞれ教材及び教師用指導書「教師月報」を配布した。通信教育受講生向け機関紙「日本習字だより」と「たのしい習字」を毎月発行した。



(2) 学習方法

受講申込みの後、教材配本→学習後、課題提出→認定・添削、質問への回答→返送を1か月の学習サイクルとして行った。臨書部の添削については希望者のみ行った。また書写技能基礎講座、書道臨書講座については最終課題提出時に修了試験を行った。



(3) コース

No.	通信教育の名称	期 間
1	書写技能基礎講座〔楷書編〕(文部科学省認定)	6 か月
2	書写技能基礎講座〔行書編〕(文部科学省認定)	6 か月
3	書道臨書講座【楷書Ⅰ】(文部科学省認定)	5 か月
4	書道臨書講座【楷書Ⅱ】(文部科学省認定)	4 ～ 1 2 か月
5	書道臨書講座【隷書】	3 ～ 6 か月
6	日本習字漢字部	1 2 か月
7	日本習字かな部	1 2 か月
8	日本習字ペン部	1 2 か月
9	実用書道くらしの書	1 2 か月
1 0	日本習字墨画部	1 2 か月
1 1	日本習字臨書部	1 2 か月
1 2	日本習字幼児部	1 2 か月

1 3	日本習字小学1年	1 2 か月
1 4	日本習字小学2年	1 2 か月
1 5	日本習字小学3年	1 2 か月
1 6	日本習字小学4年	1 2 か月
1 7	日本習字小学5年	1 2 か月
1 8	日本習字小学6年	1 2 か月
1 9	日本習字中学1年	1 2 か月
2 0	日本習字中学2・3年	1 2 か月

(4) 日本習字模範揮毫DVDを頒布した。日本習字臨書部模範揮毫DVD(付録:解説付拡大手本・条幅)を頒布・進呈した。「日本習字漢字部 条幅課題拡大手本21」、「日本習字漢字部 条幅課題拡大手本22」を頒布した。

(5) 令和2年1月から3月の幼児部、小学部、中学部、漢字部、かな部、ペン部、くらしの書、臨書部の新入会者を対象とした教材「入門編(生徒手本課題集)」「入門編(成人手本課題集)」、学習指導書を発行した。期間を限定して認定添削を行った。

(6) 資格認定

ア. 段級位の認定

(ア) 会員の課題出品に対して各コースそれぞれの基準に従って審査し、段級位を認定した。

(イ) 漢字部昇段試験を実施した。

受験有資格者に対し、昇段試験を7月に実施した。

(ウ) 臨書部昇段試験を実施した。

初段～五段(5月・9月・令和2年1月)

六段位(7月)

七段位(7月)

(エ) 生徒部八段位昇段試験を実施した。

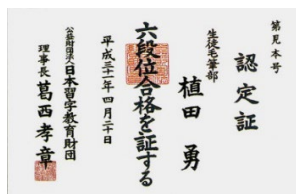
イ. 「くらしの書」実力の認定

「実用書道くらしの書」の前年度受講者で希望者に対し、実力認定試験【初級】・【中級】・【上級】を実施した。(4月)

(7) 認定証の発行

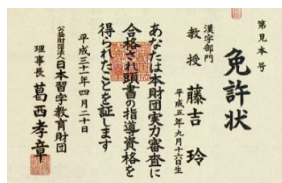
ア. 所定の段級位(墨画部は伝位)合格者に対し、本人の申請により段級位(墨画部は伝位)認定証を発行した。

イ. 「くらしの書」実力認定試験の合格者に対し、本人の申請により認定証を発行した。



(8) 免許状の発行

免許状取得資格者に対し、本人の申請により免許状を発行した。



(9) 合格之証の発行

ア．漢字部の六段位、七段位、八段位の合格者に対し、本人の申請により合格之証を発行した。

イ．臨書部の六段位、七段位の合格者に対し、本人の申請により合格之証を発行した。

(10) 雅号之証の発行

本人の申請により、雅号之証を発行した。

(11) 表彰

通信教育受講者の中から特に優秀な成績の者が表彰された。

文部科学大臣表彰〔文部科学省認定社会通信教育修了者表彰〕

講座名 書写技能基礎講座【楷書編】 表彰者 1人

講座名 書写技能基礎講座【行書編】 表彰者 1人

講座名 書道臨書講座【楷書Ⅰ】 表彰者 1人

(主催 文部科学省・一般財団法人社会通信教育協会)

2. 実習指導





本法人研修施設及び全国各地域において実習指導を行った。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、3月の各研修所講習会を中止した。

- (1) 東京研修所 通年コース（漢字部講座、条幅講座）ほか
- (2) 伊都の里研修所 通年コース（専攻科、かな専科、日曜条幅教室）ほか
- (3) 沖縄研修所 通年コース（漢字部講座、条幅講座）ほか
- (4) 各地講習会 全国各地で実習指導を行った。

また、現役大学教員による書道に関する理論講座「特別公開講座」を全国4会場で行った。

3. 学習希望者並びに継続学習者の支援

書道学習の機会拡大や継続学習の支援を目的に普及企画を実施した。

- (1) 「無料体験習字教室 DX」
習字体験学習希望者を対象とした無料指導イベントを開催する教室に、所定の案内チラシの進呈や新聞折り込み料補助、会場賃貸料補助等の運営支援を行った。
- (2) 「お習字教室へ行こうキャンペーン」
企画参加教室におけるキャンペーン期間内の通信教育入会者に対し、習字用具進呈等の受講特典を付与した。また参加教室に対しては、生徒募集チラシの進呈等の運営支援を行った。
- (3) 「中学部受講促進」
小学6年生の中学進学時期に、「行書」の先行学習（お試し出品）機会の提供や、中学部継続受講申込特典等の学習支援を行った。
- (4) 「無料体験習字教室 DX-mini」
「無料体験習字教室 DX」の開催において多くの参加があった会場および、開設後間もない新規教室を主な対象として、ポスティング用生徒募集チラシや体験参加者用教材の進呈等、小規模の無料体験教室開催の支援を行った。

4. 書道用具の頒布

会員に対し、書道の技能向上を図る上で最適な書道用具等を選定・推奨し頒布した。書道用具等は「選定品」「推奨品」「頒布会品」に区分しそれぞれ目的に応じて提供した。



(1) 選定品の頒布

書道技能向上を目的とした通信教育各コースの学習において、課題の履修のため欠くことのできない書道用具（筆・紙・墨・硯等）及び硬筆用具（鉛筆・ペン・用紙等）を頒布した。

(2) 推奨品の頒布

選定品以外に学習者からの斡旋要望または書道作品制作及び書道学習の履修に必要となる用具を頒布した。

(3) 頒布会品の頒布

特別頒布会を実施し、文化祭や教室での作品展、イベント向けの書道用具・展示用具などの頒布会品を期間限定で斡旋した。また春の特別頒布会では教室支援品、文房具等の頒布を行った。

ア.「たなばた特別頒布会」 5月～7月

イ.「かきぞめ特別頒布会」 10月～12月

ウ.「春の特別頒布会」 令和2年2月～3月

5. 国際交流

公益財団法人京都市国際交流協会とのコラボ事業として、京都市近郊在住の留学生向けに書道体験ワークショップを開催した（11月17日・京都市国際交流会館）。



6. ホームページの運用

デザインイメージや各ページの更新を行い、SNSを活用して活動やイベント等の告知、記事発信を行った。また通信教育受講申込・教室検索等の利用促進やPRのためにインターネットディスプレイ広告を実施した。



7. 展覧会の後援および書道展の支援

福岡矯正管区文芸コンクールをはじめ各種団体等が実施する書道展覧会等に対し、後援・審査等の支援をした。

二. 書道に関する展覧会の開催

1. 書道展の開催

第25回公募日本習字展を開催し、書道文化・書道教育の振興を図ることを目的に、広く一般から毛筆・硬筆作品を公募し、地区展覧会等において優秀作品を展示発表、秀作者を表彰した。



- (1) 募集方法 本展の開催募集告知を新聞、当財団ホームページで行うとともに、書塾及び書道関係者、書道愛好家に文書にて協力を求めた。
- (2) 後援 文化庁、中国大使館、全国都道府県教育長協議会、全国高等学校長協会、全日本中学校長会、全国連合小学校長会、北海道、東京都（東京展）、京都府、福岡県、沖縄県、北海道教育委員会、京都府教育委員会、福岡県教育委員会、沖縄県教育委員会、京都市（京都展）、福岡市、京都市教育委員会（京都展）、朝日小学生新聞、朝日中高生新聞

その他報道機関 87 社

- (3) 公募期間 8 月 1 日～9 月 18 日
- (4) 応募総数 91, 304 点
- (5) 審査 日本習字展審査委員会
- (6) 審査結果 文部科学大臣賞 2 点、観峰大賞 28 点他各賞
- (7) 作品発表

ア. 機関紙とホームページに文部科学大臣賞、観峰大賞作品を掲載発表した。

イ. 上記 2 賞を含む特別賞作品 96 点を掲載した特別賞入賞作品ポスターを応募者に送付した。

ウ. 地区展覧会・表彰式（いずれも令和 2 年）

札幌・東京・福岡の 3 会場は、新型コロナウイルス感染症拡大により中止した。表彰対象者には賞状・副賞を送付した。

開催日	展名	会 場（開催地）	
2 月 2 日	沖縄展	那覇市ぶんかテンプス館（那覇市）	
2 月 9 日	京都展	京都市勧業館（京都市）	
3 月 1 日	福岡展	福岡国際センター(福岡市)	開催中止
3 月 15 日	東京展	国際ファッションセンター(墨田区)	
3 月 29 日	札幌展	札幌市民ギャラリー（札幌市）	

- (8) 第 25 回記念特別企画として、様々なスポーツで活躍するアスリートの手書き文字を展示する「手書きの文字展 2020」を併催した。

- (9) 被災地への寄附

震災復興支援の一環として出品料の一部を、「いわての学び希望基金（岩手県）」、「東日本大震災みやぎこども育英基金」（宮城県）、「東日本大震災ふくしまこども寄附金」（福島県）に寄付した。

2. 席書大会の開催

第 20 回日本習字全国席書大会を小学生以上の会員を対象に参加募集し、全国 6 会場で実施した。



- (1) 募集方法 募集要項を会員に配布し、開催告知を機関紙に掲載して参加者を募った。
- (2) 後援 北海道教育委員会、愛知県教育委員会、兵庫県教育委員会、福岡県教育委員会、沖縄県教育委員会、報道機関等
- (3) 開催実績 (いずれも令和2年)

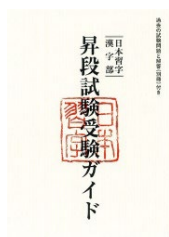
開催日	大会名	会 場 (開催地)
1月5日	名古屋大会	名古屋国際会議場 (名古屋市)
1月6日	福岡大会	福岡国際センター (福岡市)
1月12日	札幌大会	札幌市厚別区体育館 (札幌市)
1月13日	神戸大会	神戸常盤アリーナ (神戸市)
1月13日	沖縄大会	宜野湾市体育館 (宜野湾市)
1月18日	東京大会	台東館 (台東区)

- (4) 審査 日本習字全国席書大会審査委員会
- (5) 審査結果 席書大賞9点他各賞
- (6) 作品発表
- ア. 機関紙に席書大賞・準大賞・審査委員会奨励賞を掲載発表した。
- イ. 席書大賞、席書準大賞の受賞作品を第25回公募日本習字展地区展会場(京都、沖縄)で展示した。
- (7) 第20回記念特別企画
- ア. 当初より連続して奨励団体賞を受賞した団体より、毎回多くの優秀作品を輩出し大会の発展に特に寄与した団体へ感謝状を送付した。
- イ. 参加者を対象に抽選会を開催した。

三. 書道に関する機関誌その他の出版物の発行

補助教材として出版物を発行した。主な出版物は次の通り。

- (1) 漢字部昇段試験受験用教材として「日本習字漢字部 昇段試験受験ガイド 別冊過去の試験問題付き (令和元年度実施)」を発行した。



- (2) 幼児・児童向け教材として「はじめてのひらがな」、「だいすき！ひらがな」、「ひらがな練習帳1（五十音）」、「ひらがな練習帳2（ことば）」、「カタカナ練習帳」を発行した。



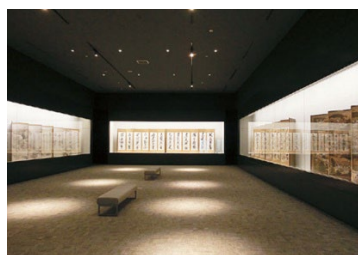
- (3) 漢字学習教材として日本習字漢字学習シリーズ①「1年生の漢字練習」を発行した（ほか、2年生～6年生まで）。



四. 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開

1. 書道文化に関する調査研究

博物館観峰館の収蔵資料の中から中国書画をはじめ、日本の教科書など文化教育に関する資料を分類整理し調査研究を行った。



- (1) 関西中国書画コレクション研究会への参加

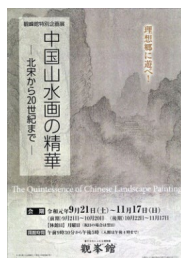
近代中国書画に関して他の博物館及び大学等研究機関との連携による共同研究に参加した。加盟館9館：京都国立博物館ほか

- (2) 収蔵資料のデータベース化

収蔵資料の内容・作者・法量・制作年などをデータベース化した。



- (3) 収蔵資料の修復を行った。
- (4) 特別企画展「中国山水画の精華」の冊子を制作し発行した。



2. 世界各国の文字資料その他文化資料の収集及びその展示公開

(1) 館内常設展示（主な展示資料）

- ア. 近代中国の書画、中国の文字資料、復元石碑
- イ. 「避暑山荘」・「三希堂」の復元資料
- ウ. 原田観峰書作品

(2) 館内企画展示を下記のとおり実施した。

	会 期	名 称
1	4月13日～6月16日	春季企画展「近江書画探訪 新しいけど面白い？」
2	6月29日～9月1日	夏季企画展「館蔵品 魏晉石刻の拓本と近代中国の書」
3	9月21日～11月17日	特別企画展「中国山水画の精華」
4	令和2年2月8日～3月15日	冬季企画展「東近江出身の仏絵師 藤野正観の仕事展」
5	令和2年2月8日～3月15日	五個荘地区共催展「商家に伝わるひな人形めぐり・ふるはし美鳥 アート展」



(3) 館外展示

宮古島市未来創造センター開館記念「清朝の美人画展」の展示を同センターにおいて行った。（8月17日～23日）

3. 教育・文化施設の運営

博物館観峰館の施設運営並びに館内で各種体験学習教室、各種イベントを開催した。

(1) 概要

- ア. 開館日 4月13日～12月26日
 令和2年1月7日～3月15日
- イ. 休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）
 展示替え期間（4月1日～12日、6月18日～28日ほか）
 年末年始休館（12月27日～令和2年1月6日）
- ウ. 開館日数 236日
- エ. 入館料 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生無料
 （団体割引、その他各種入館割引を実施）
 特別企画展は一般1,000円、高校・大学生800円、
 小・中学生無料
- オ. 入館無料日 5月5日こどもの日ほか、年間計6日

(2) 書道に関する体験学習教室の開催

瓦当拓本教室、石碑採拓教室などを適宜開催した。



(3) 各種イベントの開催

- ア. 企画展に関連して寺院見学会と展示解説を開催した。
 5月26日「石馬寺ツアー」引率：当館学芸員
- イ. ギャラリートーク&ミニコンサート 2回
- ウ. 体験イベント「夏休み子ども博物館」
- エ. 土曜講座 6回※3月度は中止
- オ. 特別企画展に関連して講演会「山水画における倣古—その意義を考える—」を開催した。講師：京都市立芸術大学准教授・竹浪遠氏（10月20日）

カ．第24回観峰館かきぞめ大会

キ．コンサート等の来館者誘致イベント 3回

(4) 博物館学芸員実習生の受け入れ

博物館学芸員養成の一環として実習希望学生に対して、資料取扱法・作品調査・教育普及などの実習指導を行った。(静岡大学2人、京都府立大学1人)

(5) 地域及び教育機関と連携した学習・研修機会の提供

ア．淡海書道文化専門学校

イ．東近江市立五個荘中学校

ウ．大東文化大学

(6) 展示資料解説

各種団体・学校・グループ来館者に対し館内の案内、資料解説を行った。

(7) 書籍の寄贈

宮古島市未来創造センター開館記念として、宮古島市へ展覧会図録・紀要・書道関連書籍を寄贈した。(8月)

五．書道に関する教育・研究機関への助成

- (1) 「公益財団法人日本習字教育財団 学術研究助成運営委員会」を開催した。
- (2) 公募・助成の学術領域を5項目に定め、審査員に外部有識者を招聘し研究を公募した。
- (3) 第6回学術研究助成の成果論文の提出を受け、「査読委員会」による成果論文の査読を行った。



- (4) 第7回学術研究助成事業にあたり、募集要項を当財団ホームページや書道雑誌へ掲載し、書道学会での告知を行った結果、助成対象は3件であった。

六．その他本法人の目的を達成するために必要な事業

1. 「習字の日」事業の実施

周知活動の一環として次のことを行った。

- (1) 会員向けに、「手紙をかこう」企画を実施した。また活用事例を機関紙で広

く紹介した。



- (2) 一般向けに、習字のワークショップを開催し（10月20日・イオンモール幕張新都心）、未就学児と小学校低学年に対して、習字への興味喚起と体験教室への誘導により習字の魅力を伝えた。



2. 委託研究

「書字教育に資する幼児教材開発のための基礎的研究」をテーマに、就学前の幼児を対象とした幼児教育に必要な基礎的データ等の調査研究を、松本仁志氏（広島大学教授）を代表とする3名の研究者に委託し、当該分野の先行研究等の整理・分析を行った。研究期間は令和4年3月まで3か年。